

われらは南小学生



波佐見町立南小学校
学校だより No.8
令和4年11月1日(火)
文責：校長 藤井大作

充実の校外学習 ～5年宿泊学習、6年修学旅行～

まず、5年は宿泊体験学習に出かけました。テーマは、「手をつなごう大作戦～つながる仲間！高まる仲間！～」でした。家庭とは違う環境の中で力を合わせてやり遂げる体験をすること、安心・安全に過ごすためにどうすればいいのか考え判断すること、自分も友達も挑戦しようという気持ちになるような思いやりの気持ちを持つこと、などを目指して取り組みました。



職員は、夏休みから下見をするなど、事前の準備をして臨み、無事に実施できました。

また、6年は修学旅行に行ってきました。修学旅行は、「教育旅行」です。また、高額の出費を出していただくのですから、学習としての効果も重要です。それらを考え、見学先を選びました。今回は「人を通して学ぶ」体験を重視しました。平和、伝統文化継承、文化財、リーダー論、夢や志を持ち生きることなど学びました。また、友達と相談し、助け合い、時には失敗することも通して、友達の絆を深めました。



道中、職員は、「何のために行くのか、何を学ばせ、何を感じさせるのか」を常に意識した声かけ、心配りを行っていました。

どちらも1泊2日の中で、たくさんの学びがありました。

マスクの着用について

本校では、厚生労働省の呼びかけに合わせ、下記の対応を基本としております。

- 屋外では、マスクの着用は原則不要。
- 屋内では、距離が確保でき、会話をほとんど行わない場合をのぞき、マスク着用。

ただし、それぞれの事情、または様々な理由により、上記のとおりではない子供もいます。

本校では、人権教育の観点から、本人の意に反してマスクの着脱を無理強いすることなく、「相手の立場に寄り添い、思いやりの心を持って過ごすよう」に指導をしています。

御家庭、地域の方々におかれましても、どうか御理解ください。



心配しています ～オンラインゲームにまつわるトラブル～

オンラインゲームを通じた子供たちのトラブルが全国的に増加しています。本校の子供たちからもオンラインゲームの話題を耳にすることがあります。

いくつか人気のあるゲームがありますが、よくあるのは、オンラインで100人程度が同時に、ゲーム上の仮想空間の中で、生き残りをかけて戦うゲームです。

代表的なものに「フォートナイト」や「荒野行動」というものがあります。子供たちが話しているのを耳にしたことがありますか？ 全国的に、これらのゲームでのトラブルが多発しています。

主に起きているトラブルは、次の5つ。

- ①「子供自身の暴言」
- ②「仲間外れなどのいじめやトラブル」
- ③「長時間プレイのゲーム依存問題」
- ④「高額課金」
- ⑤「個人情報漏洩や出会い系被害」

どれも重大な問題をはらんでいますが、今回取り上げるのは、①から③です。

①と②はつながっています。子供がゲーム内で「死ぬ、消えろ」などと罵り合い、その結果いじめなどのトラブルにつながる事例、また、チームで行うゲームであるため、下手だとか、時間になっても参加しなかったなどの理由で、現実生活でも仲間はずれにされる事例などがあります。

③については、「1位を取りたい。友達がいるから途中でやめづらい。」などの理由で深夜までしている子供がいます。

ホームページの御案内

子供たちの様子を伝えるためにホームページにはできるだけ写真を載せるようにしています。「なかなか学校に行けないが、写真を見て安心している。」という嬉しい言葉をいただくことがあります。ところで、ホームページの写真は、パソコンやタブレット、スマホに保存できることは御存知ですか？ パソコンなら写真の上にマウスを動かし、右クリックで「名前を付けて保存」でできます。

一方で、「顔出しの掲載は困る」という方は担任を通してお知らせください。配慮します。

波佐見町教育相談電話の御案内 (☎ 0956-85-3899)

波佐見町では、いじめや不登校などの相談に対応する専用電話が設置されています。何かお困りの時、だれにも相談できないという時などに御活用ください。

これらのゲームが子供に人気があるのは理由があります。Switch やスマホなどプレイできる端末が多いこと。また、スタートするためのダウンロードは無料であること。YouTube の実況動画も多くあり、プレイしたくなる環境は整っています。

でも、考えてみてください。

根本的な話ですが、これらのゲームの多くは、CEROで15歳以上を対象にレーティングされています。これは、15歳を下回る子供には、性表現、暴力表現、反社会的行為表現、言語・思想関連表現において問題があるという意味です。つまり、「15歳を下回る子供には適さない。」ということです。

この事実をご存知でしょうか？

ゲームを与えたのは大人です。であるならば、ルールを決め、使用状況を確認し、制限をかけ管理するのも大人の責任ではないかと考えます。

親子で深刻な問題を抱え込む前に、御一考いただきたいと思えます。



CEROについて



ネット利用
「ながさき基準」
チラシ



本校の
ホームページ

